

平成 20 年 11 月 20 日

各 位

会 社 名 佐 渡 汽 船 株 式 会 社
代 表 者 の 代 表 取 締 役 社 長 小 川 健
役 職 ・ 氏 名
(J A S D A Q コード番号 9 1 7 6)
問 合 せ 先 取 締 役 総 務 部 長 木 村 毅
役 職 ・ 氏 名
電 話 番 号 0 2 5 - 2 4 5 - 2 3 1 1

平成 20 年 12 月期通期（連結・個別）業績予想の修正及び特別損益の発生に関するお知らせ

平成 20 年 12 月期通期の連結業績予想について、平成 20 年 8 月 21 日付にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

なお、特別損益が発生いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1 . 平成 20 年 12 月期 連結業績予想数値の修正

(1) 通 期 (平成 20 年 1 月 1 日 ~ 20 年 12 月 31 日)

(百万円未満切捨)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A) (平成 20 年 8 月 21 日発表)	百万円 10,052	百万円 50	百万円 120	百万円 240
今回修正 (B)	10,750	6	190	81
増 減 額 (B - A)	698	56	70	159
増 減 率 (%)	6.9	-	-	66.3

(2) 修正理由

平成 20 年 12 月期通期の売上高は、佐渡観光の不振による観光客の減少傾向に加え、当社の最盛期である 7 月から 9 月にかけてガソリン価格高騰の影響等によりマイカー客の利用が前回予想を大幅に下回り、また、今後も回復の兆しが見られないことから当社の売上高が 175 百万円減少する見込みであります。

しかしながら、下期から連結子会社となった佐渡汽船運輸株式会社の業績に与える影響額を前回の予想数値には反映させておりませんでした。今回、佐渡汽船運輸株式会社の売上高 843 百万円を取り込んだことにより売上高が増加する見込みであります。

営業利益につきましては、高騰を続けておりました原油価格が徐々に下降傾向にあることから船舶燃料費が減少する見込みであります。当社の売上高の減少額が原油価格の減少見込み分を上回るため損失となる見込みであります。

経常利益につきましても、同様の理由により損失が増加する見込みであります。

当期純利益につきましては、予定外の退職者が発生し、今後も退職者の発生が予想されることから特別損失に計上される割増退職金が増加する見込みであり利益が減少する見込みであります。

以上の理由により、売上高 10,750 百万円、営業利益 6 百万円、経常利益 190 百万円、当期純利

益 81 百万円に修正いたします。

なお、前回予想数値に反映させておりませんでした新規連結子会社である佐渡汽船運輸株式会社の業績に与える影響額は、売上高 843 百万円、営業利益 17 百万円、経常利益 19 百万円、当期純利益 18 百万円となる見込みであります。

連結子会社である新潟県観光株式会社及び佐渡汽船スチュワーデス株式会社は、平成 20 年 12 月 1 日をもって佐渡汽船観光株式会社を存続会社とする吸収合併を行い、消滅会社となります。これにより、平成 20 年 12 月 1 日から、連結子会社が 2 社減少し、新たに佐渡汽船観光株式会社が連結子会社となりますが、この合併による業績への影響額につきましては、現在算定中であり、業績予想数値には反映させておりません。

また、当社は平成 20 年 12 月 5 日に佐渡汽船商事株式会社の株式を取得し、同社に対する議決権比率が 50.0% を超えることから連結子会社となりますが、業績への影響額につきましては、現在算定中であり、業績予想数値には反映させておりません。

(3) ご参考：前期の実績（平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）（百万円未満切捨）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
通 期(1/1～12/31)	9,303	192	55	315

2．平成 20 年 12 月期 個別業績予想数値の修正

(1) 通期（平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）（百万円未満切捨）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回予想（A） （平成 20 年 8 月 21 日発表）	8,967	1	156	234
今回修正（B）	8,792	77	245	67
増 減 額（B - A）	175	78	89	167
増 減 率（%）	2.0	-	-	71.4

(2) 修正理由

平成 20 年 12 月期通期の売上高は、佐渡観光の不振による観光客の減少傾向に加え、当社の最盛期である 7 月から 9 月にかけてガソリン価格高騰の影響等によりマイカー客の利用が前回予想を大幅に下回り、また、今後も回復の兆しが見られないことから売上高が減少する見込みであります。

営業利益につきましては、高騰を続けておりました原油価格が徐々に下降傾向にあることから船舶燃料費が減少する見込みであります。売上高の減少額がこれを上回るため損失となる見込みであります。

経常利益につきましても、同様の理由により損失が増加する見込みであります。

当期純利益につきましては、予定外の退職者が発生し、今後も退職者の発生が予想されることから特別損失に計上される割増退職金が増加する見込みであり利益が減少する見込みであります。

以上の理由により、売上高 8,792 百万円、営業利益 77 百万円、経常利益 245 百万円、当期純利益 67 百万円に修正いたします。

(3) ご参考：前期の実績（平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）

（百万円未満切捨）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
通 期(1/1～12/31)	8,649	169	55	297

3．特別利益の発生について

当中間期において、債務保証損失引当金取崩益 39 百万円を計上していましたが、当社の債務保証先の会社が借入金の弁済を行ったことにより、金融機関に対する債務が消滅したため取崩しを行ったことから 308 百万円が新たに発生し 348 百万円を計上しております。

4．特別損失の発生について

(1) 当中間期において、割増退職金 16 百万円を計上していましたが、予定外の退職者が発生したことから 20 百万円が新たに発生し、37 百万円を計上しております。

なお、今後、新たに 59 百万円の割増退職金の発生が見込まれます。

(2) 当中間期において、貸倒引当金繰入額 44 百万円を計上していましたが、当第 3 四半期末において、債権の回収可能性を見直した結果、325 百万円増加し 369 百万円を計上しております。

なお、貸倒引当金繰入額増加の原因は債務保証先の会社が金融機関に借入金の弁済を行うにあたり、当社が同社に対して貸付を行い、この貸付金に対して貸倒引当金を計上したためであります。

以 上